

「美しき嫌われ者”花粉光環”(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

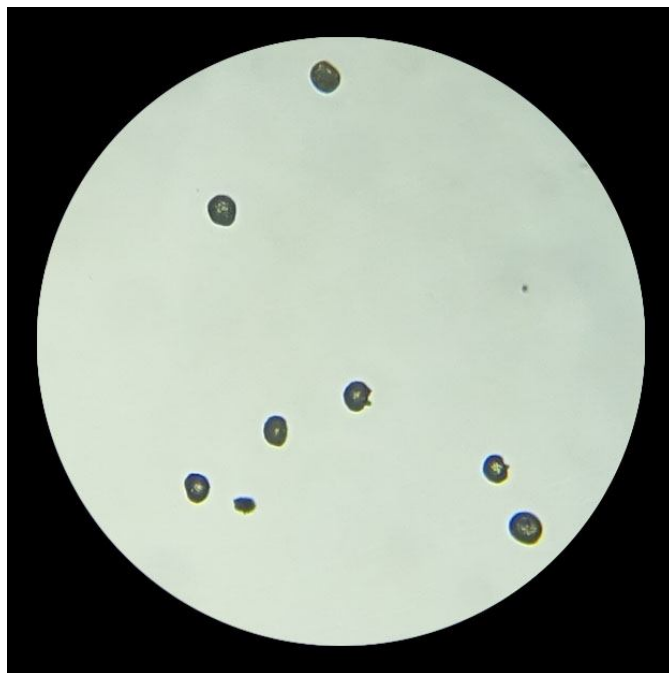
3月8日にははっきりとした花粉光環が現れてから、晴れた日が多く、ほぼ毎日のように観察できた。



3月14日もよく晴れて、午前中から花粉光環が見えていた。この写真は5年教室のテラスから、屋上の底で太陽を遮蔽して撮ったものだ。3月8日のものほど鮮明ではないが、確かに光環が写っている。私は、この光環を作っている実態---つまり飛来しているスギ花粉そのものを観察してみたいと思った。

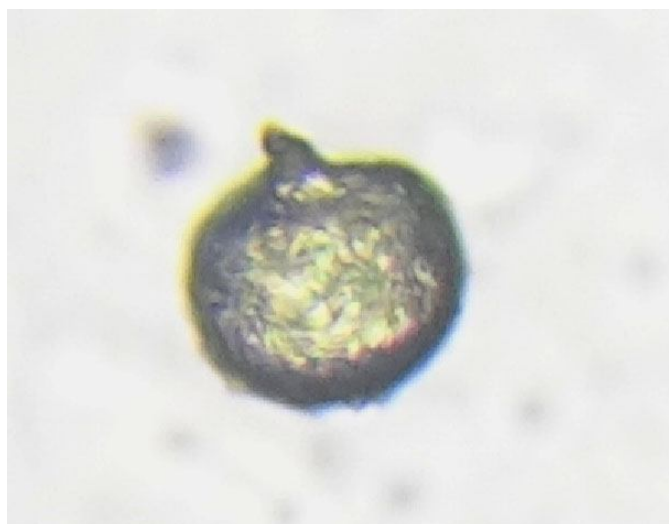


このシーズン、スギの花粉を採取するのは実に簡単だ。空の開けた場所に、数時間、スライドを置いておけば良い。これは5年教室のテラスの手すりに置いた様子だ。万が一落下すると危ないので、布ガムテープで固定しておいた。より確実に花粉を採取するには、表面に透明な粘着性のものを塗っておくと良い。テープのりが一番手っ取り早い。しかし何も塗らないスライドでも十分に採取可能とわかった。



サンプルは、午前10時に設置し、午後1時に取り込んだ。さっそく400倍の倍率で見ると、スライド全体にスギ花粉が付着していた。正確に数えたわけではないが、上の写真程度が平均的な密度だった。

スギの花粉の大きさ(直径)は0.015mm程度、上の写真の視野の直径は約0.35mmである。そこにスギ花粉が7個見える。視野の実面積は約0.1mm<sup>2</sup>となる。スライドは縦25mm、横75mmで、面積は1875mm<sup>2</sup>となる。スライド全体では、3時間で約13万個の花粉が付着した計算だ。1m<sup>2</sup>では、わずか3時間で6千万個以上の花粉が降ったことになる。これでは、花粉症の方は苦しいに決まっている。



スギ花粉は更に拡大すると、こんな形状をしている。この突起が、スギ花粉を見分ける決め手になる。こんなリングのようなかわいらしい形の小さな粒が、何百万人もの人を苦しめていたわけだ。これもまた「美しき嫌われ者」と言えるだろう。